



宝塚市立売布小学校 校長 藤山 昌生



2024年、新しい年を迎えました。本年も引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。新しい年を迎えると、今年は「こんな自分になりたい」「こんなことにチャレンジしたい」という気持ちが湧き出てくるのではないのでしょうか。このような年の初めの気持ちを、ぜひ何か書き留めることで、「目標」にしてほしいと思います。今年も、自分自身が成し遂げたいことに対して、スモールステップで目標に向かって努力できる1年にしていけるといいですね。

その新しい年を迎えた元日の午後4時すぎ、石川県能登地方を震源とした大きな地震が発生しました。最大震度7が観測され、日本全国の広い範囲でも揺れが記録されました。テレビ等の速報からは、津波からの避難を呼びかけるために本当に切迫した強い口調で避難を呼びかけられました。その後は、被災の状況、人々が避難所で不自由な生活を続けている状況、亡くなった方、行方不明の方の状況が伝えられるたびに、胸が締め付けられるような思いになります。今の今までそこにあった人々の生活はどうなっていくのだろう、学びの場である学校はどうなっていくのだろう。現地ではこれからも様々な困難が続いていくと思いますが、私たちができることは限られていると思います。いま私たちができることをしっかりと考え、そしてやり続けていくことが支援につながっていくと思っています。

さて、1月17日、阪神・淡路大震災から29年になります。29年という長い年月が過ぎましたが、忘れることはできませんし、決して忘れてはならないという気持ちがあります。まさに、学校は避難所となり、子どもたちの学習の場に多くの人々の毎日の生活がありました。29年前に比べて時代も進んできたので、防災教育や避難所運営など改善されたことも多くあります。しかし、あの時の体育館の状況を思い出すと、例えば感染症への対策一つとっても、避難生活はとても大変だと予測されます。17日には、地震の避難訓練や防災給食を実施します。災害に対しての日々の備えはもちろんのこと、苦しい時であるからこそみんなで助け合うことの大切さや、自分たちができることを積み重ねていくことを確認する日にしていきたいと思っています。



大谷翔平選手 (Los Angeles Dodgers) から、昨年末、「野球しようぜ!」というメッセージとともに、野球グラブが3つ届きました。みんなで大切にに使わせてもらいたいと思います。

